

## ● まちづくりにかす「かおり」

まちに馴染んだ独特のにおいはそのまちの個性です。人の「体臭」と同じように、まちにはそのまち特有の「まちのかおり」があります。いろいろなかおりが組み合わさり、そのまち独特のかおりとなります。人々が身の回りのにおい・かおりに気づき、まちのかおりをいかす気持ちを共有することは、悪臭の未然防止につながります。さらに、生活の質の向上を目指し、安心して、安全に暮らせるまちづくりに、心地よいかおりが加わることで、まちの魅力を一層引き立てることができます。

### ● まちのかおり・自然のかおり

商店街では、多種多様なにおいが混沌としており、行き交う人々の動きによって、また自分が移動することによっても、においがさまざまに変化するのを感じ取ることができます。鮮魚店、肉屋、蕎麦屋、ケーキ屋、駄菓子屋などはその場所に近くなるにつれ、においも強くなり、また通り過ぎると別のにおいにかき消されてしまいますが、それぞれがその「まちのかおり」をつくっています。工場の多いまちでは、作業の音とともに溶接のにおいが時折するかもしれませんが。お寺の多いまちでは、朝からもしかすとお堂からかすかに聞き取れる読経とともに線香のかおりがするかもしれません。

まちのかおりは人間活動の副産物が多いようですが、自然も大切な役を担っています。川は、山からのすがすがしい空気やかすかに海のかおりを運んでくれます。山は、木々のフィトンチッド<sup>4</sup>をもたらし、土や落ち葉のにおいも心を落ち着かせてくれます。そして、樹木や草花はその時々で自分を主張するかのようなさまざまなかおりを放ち、私たち人間を楽しませてくれます。



4：フィトンチッド

ロシア語で、フィトン「植物」、チッド「他の生物を殺す能力を有する」の意味で、植物から発散される強い殺菌性のある揮発性物質のことです。その一つにすがすがしい森林の香りがあります。森の中で散策や休息しながらフィトンチッドを嗅ぐことにより、神経をやわらげ、健やかな心身を得ることを森林浴といわれます。



写真1：まちのかおり（寺町の線香）



写真2：自然のかおり（梅の花）

### ● かおりでまちの魅力を生みだす

一般の人々が、視覚や聴覚にくらべ、かおりやにおいの認識レベルが低いのは、嗅覚に関する訓練を受けていないことが原因です。小学校では絵を描い

たり、歌を歌ったりしますが、かおりを扱う教科はありません。<sup>5</sup>そのため、かおりやにおいに対する感覚を磨き、感覚環境のモノサシを使うことからはじめなくてはなりません。まず、嗅覚のスイッチをオンにしているという意識でかおりに触れ、感じとったことを自分の言葉で表現します。「甘い」と感じたら、何に似て甘いのか、その甘さから何を思い出すのか、上手に表現してください。

また、かおりやにおいは記憶や感情と深い関わりをもつため、まちの記憶や歴史を辿り、まちへの思いを深める地域おこしの材料にもなります。(写真3.4) さらに、かおりやにおいは、一瞬にして人を引きつけるという特徴もあります。考え事をしていても、鰻屋から漂う香ばしいかおりで、急にお腹が減ってしまったり... このような特徴は、人々の注意や意識をまちに向けさせる仕掛けとして活用することもできるでしょう。



静岡県伊東市の「黒文字」

温暖で霧が多く、かおりの良い黒文字が自生する地域。明治時代から昭和40年頃まで盛んだった精油づくりを、地域性・伝統性の面から、旅館オーナーが復活させました。



北海道・下川町の「HOKKAIDO Momi」

まちの森林組合が、間伐枝の葉による精油づくりを事業化。現在はNPO法人として、ソフト事業へも展開し、まちの魅力づくりや雇用促進など、森とともに育っていくまちづくりをすすめています。

## 5:「香育」の試み

自然環境や植物との接触が減少している現代子どもたちに、自然の香りを楽しむという感覚的経験を提供することを目的に、その試みがはじまっています。

## かおり

写真3：かおりで地域おこし

地域に自生する樹木は、長い歴史の中で、地域の産業や文化と深いかわりをもっています。また、それらが放つかおりは、地域の歴史や風土を伝えるだけでなく、人々の記憶や感情に直接訴えかけながら、地域おこしに役かっています。

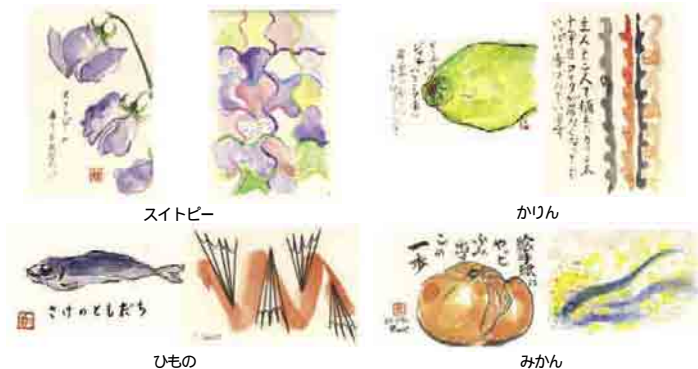


写真4：かおりの絵手紙

それぞれ、左はモチーフの色や形を描いたもの。右はモチーフのかおりを描いた絵手紙です。資料提供:宮城県大崎市「感覚ミュージアム」



## ● まちを歩いてかおりを探そう！

使い方

- 1) 対象となる範囲を決めてまちを歩き、色々なかおりを嗅いで、イメージを自分のことばで記録します。
- 2) 色や音に例えて表現したり、思い出したり連想したりしたこと、好きか嫌いかなども記録します。
- 3) かおりをみつけた場所をマップにおとせば、まちのかおりマップができあがります。

私

氏名 \_\_\_\_\_ 性別 男・女 年齢 ~ 10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代~

日時 \_\_\_\_\_ 年 月 日( ) : ~ : \_\_\_\_\_ 季節 \_\_\_\_\_

天気 快晴 ・ 晴れ ・ くもり ・ 小雨 ・ その他( \_\_\_\_\_ )

寒暑 暑い ・ ちょうどよい ・ 涼しい ・ 寒い 風 風がある ・ 風がない

調査対象となる範囲 \_\_\_\_\_

調査の記録

場所の番号	どうかおりがしましたか？	何からかおりがしましたか？	思い出したこと・連想したことは？ 色・音・味・手触りなどでも表現してみよう	このかおりは好きですか？
例	夏みかんの花の甘いかおり	お隣の庭の夏みかんの木	甘い、とても濃厚。白い小さな花と大きな黄色いみかんを連想した。子どもの頃に、アゲハを育てたことがあったことを思い出した。	好き・嫌い
1				好き・嫌い
2				好き・嫌い
3				好き・嫌い
4				好き・嫌い
5				好き・嫌い
6				好き・嫌い

かおりマップ

ベースとなるまちのマップを貼り付け、みつけたかおりの番号を記録

かおり

## 「光環境」とは

夕暮れの窓明りとイルミネーション、夜空に輝く月や星、ゆれるロウソクの炎とホタルの光、青空に架かる虹と水面のきらめき、真夏の強い日射しと黒い影 私たちが普段「光」と呼んでいるのは、可視光線<sup>1</sup>という目に見える光です。一般に、人間は外界から得る情報の多くを視覚に頼っていると

言われています。人間がものを見るためには光が必要です。光は視環境の源泉であり、感覚環境には重要な要素です。

また、光はものの見え方を大きく左右します。平面、立体、空間、環境の姿形は、光の操作によって様々に変化しますから、光の扱いに成功すれば、素晴らしい快適で美しい景色を手に入れることができますし、逆に失敗すると、不適切な環境にもなります。

光環境に関わる大切な要素は、光の量（照度<sup>2</sup>、輝度<sup>3</sup>）、光の色（色温度）、色の再現性（演色性）、均斉度（光と陰影）、光源の位置、時間の変化などがあります。特に光の量については注意が必要です。これまで照度という入射する光の量を重視しすぎていたために、物体にあたり反射する光の量（輝度）による環境設計がおろそかになっていました。感じる環境においてはこの輝度設計が最大のテーマで、感じる明るさや暗さの演出が重要なポイントです。

- 1：可視光線  
人間が光として感じる可視光線の波長は380～780nm（ナノメートル：1nm=1/10億m）とごく狭い範囲です。
- 2：照度  
「自然光や人口照明で照らされた場所の明るさ」のことです。照度計で計測することができます。
- 3：輝度  
「光源自体の明るさや照らされた面などの明るさ加減」のことです。

# 光

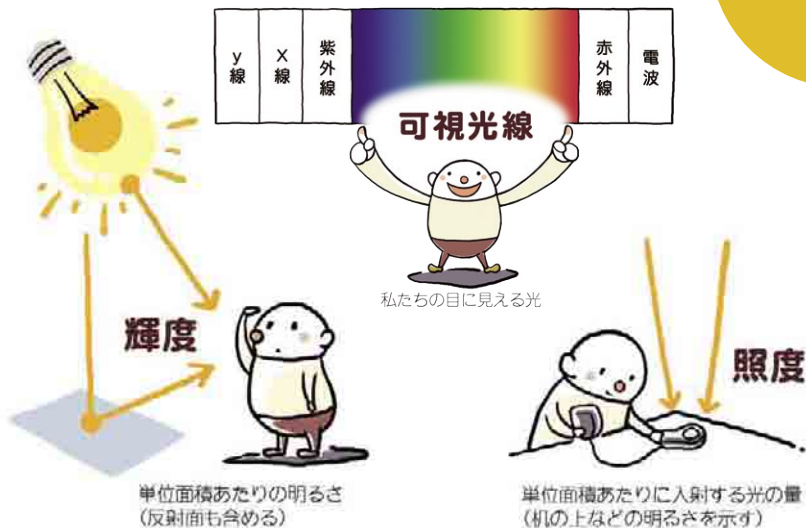


図1：光に関わる大切な要素



写真1：地球の夜景

宇宙から地球の夜景を撮影すると、電気の明かりでくっきりと縁取られた日本列島が写ります。光の無駄使いをやめることは、CO<sub>2</sub>削減、地球温暖化対策にもつながります。

光

## ● まちづくりにかす「光」

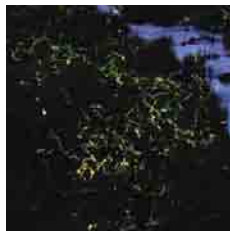
まちづくりで大切な光の設計要素は「光害をなくし快適な光でまちを満たす」ということです。まちづくりを行うためには、市民や行政、企業などの関係者の総意を積み上げていくことが不可欠なので、まず、不快な光や快適な光について明確に学習し共有しなければなりません。20世紀、私たち日本人は光を多用し、まちを明るくすることを優先し、白い色の光ばかりを求め、環境から陰影を無くし、時間を固定するような景色を作ってきたと言われていました。すなわち、蛍光灯や水銀灯による白い夜をつくり、路上や公園でも翳（かげ）りなく均一に照明することが良いことだとされてきました。防犯対策などの観点も充分考慮する必要がありますが、「人間に快適で地球環境にとっても正しい選択なのか」ということを再度問い直してみる必要もあります。良い光環境とはどのように設計されるべきなのか。これからの感覚環境のまちづくりの中で、光をどのように考えていったら良いのでしょうか。

### ● 量から質に転換する

まず、地球環境を保護する立場に立つと、突然電力を手に入れた20世紀の、光の量に頼ったまちを再検討する必要があります。現代人の光の無駄使いを反省し、夜を昼に近づけるのはやめ、わずかな光の量でも十分に快適で美しい、居心地の良さを感じるまちを求めていくことが大事です。私たちの感覚に訴える環境は、量から質への意識の転換によって生み出されるのです。

### ● 自然の光に学ぶ

全ての良い光の要素は、自然の光の中に学ぶことができます。自然光とは太陽光と灯火（ともしび）そしてこれらが見せる自然の情景の全てです。私たちは、朝日から夕日に至るまでの太陽光の様々な表情に心打たれ、なぐさめられて生きています。焚き火やロウソクの炎には何億年も前からの暖かさを感じることができます。宇宙の彼方からの星明りやホテルのあかりにも、良い光の原点を知ることができます。新しい光源を駆使する時代を迎えて、私たちは自然の光に学ぶことを怠ってはなりません。



#### 写真4：まちの個性を表現する

光の価値や快適性はそれぞれの歴史、人々、地形、気候、風土、文化などによって様々です。

沖縄県・石垣市の「南の島星まつり」  
旧暦の七夕近辺の夜、全島一斉のライトダウンで、美しい夜空を楽しむイベントを開催しています。まちの人々がライトダウンに協力し、自然そのものの、星降る夜を生み出します。



#### ● まちの個性を表現する

光のまちづくりに欠くことのできない要素が、まちの個性を表現することです。画一的な技術が広範囲に利用されている昨今、どこでも同じように光を扱ってきたため、まちの個性が失われつつあります。光の価値や快適性はそれぞれのまちの歴史、人々、地形、気候、風土、文化などによって千差万別です。赤道直下のまちと緯度の高いところに位置するまちとでは、光の個性も全く異なるはずでしょう。光で“いい感じ”をつくること、それはまちの個性を光で表現することです。



#### なら燈花会

夏の10日間、古都奈良がやわらかいろうそくの灯りで浮かび上がります。1万本のろうそくの灯りが、奈良のまちとけ込み、人々に感動を与えています。

光



## ● 光のシーンを観察しよう！

使い方

- 1) 調査対象となる範囲を決めます。(例： 公園、 駅周辺、 通り、 私の通学路 など)
- 2) シーン (例： 象徴的な場所、 ごく普通の場所 など) 調査テーマを設定します。
- 3) シーン毎に光の様子を記録し、写真やスケッチを添えます。 記憶の光で行う場合は感じたこと

私

氏名 \_\_\_\_\_ 性別 男・女 年齢 ~ 10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代~

調査の条件

日時 \_\_\_\_\_ 年 月 日( ) : ~ : \_\_\_\_\_ 季節 \_\_\_\_\_

天気 快晴 ・ 晴れ ・ くもり ・ 小雨 ・ その他( \_\_\_\_\_ )

寒暑 暑い ・ ちょうどよい ・ 涼しい ・ 寒い 風 風がある ・ 風がない

調査対象となる範囲 \_\_\_\_\_

調査の記録

調査テーマ (例： 緑濃い散策路と水辺をもつ公園の光と陰の効果を探る)

光

シーン	光の様子	写真・スケッチ
例	<p>どのような光(または陰)</p> <p>例) 木漏れ日</p> <p>概要</p> <p>例) 強い太陽の光を木々の葉が仰え、風による揺らぎが涼しさを提供する</p> <p>ことばで形容すると</p> <p>例) さらさらとうつろいで</p>	
1	<p>どのような光(または陰)</p> <p>概要</p> <p>ことばで形容すると</p>	
2	<p>どのような光(または陰)</p> <p>概要</p> <p>ことばで形容すると</p>	

## 「ねつ環境」とは

真夏の照りつける日射し、閉めきった部屋の蒸し暑さ、木陰や川辺の涼しさ、冬の冷たく乾いた北風や縁側の日だまり 私たちを取り巻くねつ環境の快適さは、温度だけではなく、湿度、風、放射が影響します。

同じ気温であっても、湿度が低ければ快適に感じられます。クーラーの設定温度を上げて、除湿機を同時に使って湿度を下げてやると、涼しさは保つことができます。

また、扇風機を使って風を浴びると、クーラーを使わなくても涼しく感じることができます。しかも、風を強くすればするほど涼しく感じられます。

最後は放射です。物体はその温度に従って、電磁波の形で熱を放射しています。これを受けることを放射による熱伝達といいます。夏の日中、道路のアスファルト面の温度は50～60にも達します。アスファルト面に手をかざすとじりじりと焼かれるような感じがします。これが放射熱です。太陽の陽射しを浴びて温度が高くなった道路や壁に囲まれていると、気温があまり高くなくても暑く感じるのです。逆に、屋外を歩いていて木陰入ったときに、急に涼しく感じるがありますが、これは気温が同じでも放射を受ける量が減るためです。

気温、湿度、風速、放射の4つに加えて、着衣の量は、涼しい、暑いに大きく関係します。また、暑いと感じるときには、薄着にすればいいのです。みんな薄着になって、涼しく感じようというのがクールビズ<sup>1</sup>です。4つの要素と着衣の量を工夫することで、快適に過ごすことができます。

### 1：クールビズ

COOL BIZ 環境省が提唱する、夏のビジネス用軽装の愛称。職場の冷房を28度に保った状態で、涼しく格好良く働ける服装をさします。ネクタイなし上着なしのスタイルなど。



図1：放射のイメージ

ねつ



## ● まちづくりにいかす「ねつ」

### 2：ヒートアイランド

都心部の気温が郊外部と比べて特に高くなる現象。草地や森林などが減り、地面のアスファルトやコンクリートが太陽の光を浴びて蓄熱したり、車やエアコンの室外機などから排出される熱い空気でもちが過剰に暖められるのがその原因です。

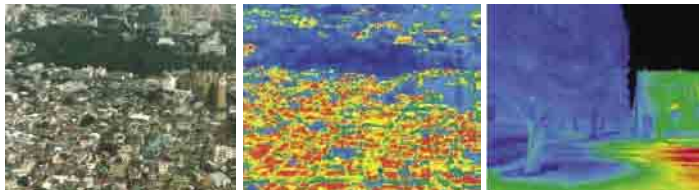
近年、都心でヒートアイランド<sup>2</sup>といわれる環境問題が生じています。これは、都心部の気温が郊外部と比べて特に高くなる現象です。ヒートアイランド現象が生じる主な原因は、都心部の地面がアスファルトに覆われていること、クーラーの室外機などから熱い空気が排出されていることです。

市街地では、草地や森林などの自然が減っていて、ビルや道路に覆われています。ビルの壁面や道路は太陽光を浴びると蓄熱して表面の温度が高くなり、熱くなった表面はすぐ近くの空気を暖めます。これがヒートアイランドを引き起こします。(図1)また、ビルのクーラーの室外機からは室内を冷やした分の熱が排出されていますし、自動車のエンジンなどからも熱が排出されています。これらも都市の空気を暖めていることも問題です。

ヒートアイランドを引き起こさないように、植物を植えて地面をなるべく自然な状態にしたり、クーラーをなるべく使わないようにして、都市を暖めないようにしていく必要があります。それでは、熱くなった都市でどのようにしたら快適に過ごせるでしょうか。

図1：夏の昼の熱画像

1990年7月28日12:00  
奥のまとまった緑は護国寺の森で、手前は木造の建物が密集した地域。建物の屋根が最も高温になります。護国寺の森の温度は気温とほぼ等しく、木造建物の屋根と比べると20度も低くなっています。(写真左・中央)これは、樹木が木陰や蒸散作用により、地表面の温度が上がるのを防いでいるためです。(写真右)  
資料提供：東京工業大学・梅干野晃教授



ねつ

### ● 風や緑をいかす

都市に風を取り込めば、それだけ涼しく感じられます。一般的に風は、昼は海から陸へ、夜は陸から海へと吹きます。また、風は川や水田など、平らなところの方がよく吹きます。どこを風が吹いているかをよく知り、その風を弱めることなく都市の中に取り込むことが重要です。(写真1)そのときには、風で運ばれる空気の温度を上げないように、緑で地面を覆っていくと一層快適になります。また、樹木を植えて木陰をたくさん作れば、快適にまちの中を歩けます。樹木や芝生は、地中から水を吸い上げて葉っぱで蒸発させているので、陽射しを浴びても表面の温度があまり上がりません。また樹木は、道路のアスファルト面やビルの壁に陽射しが直接当たるのを防いでくれますから、ヒートアイランドを緩和する役割もあります。



写真1：都市に風を取り込む河川

韓国のソウルで行われた河川の復元事業です。都市の再開発事業という位置づけで、清溪川（チョンゲチョン）に架かっていた高架道路を廃止しました。道路という人工排熱源が、都市に冷気を取り込む、緑と水の空間として生まれ変わりました。

資料提供：独立行政法人国立環境研究所・ノ瀬俊明氏

## ● 打ち水

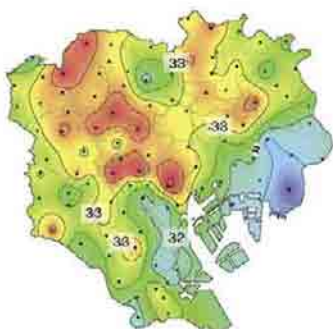
水は蒸発するときに周囲から熱を奪います。ですから身の回りに水をたくさんまいておけば、それだけ熱が奪われます。これが打ち水です。打ち水によって身の回りの物体の表面温度を低く保つことができますし、空気を冷やすことができます。特に夕方に打ち水をすると、空気が冷えてひんやりとした冷たい風を感じることができます。

## ● ねつからまちの文化を見直す

上州のからっ風や東北のやませ、京の底冷えや丹波霧など、その地域特有のねつ環境（気候・風土）を表す言葉が、地域の個性として全国に知られています。また、厳しいねつ環境が忍耐強い住民気質を育んだり、食べ物の好みに影響したりしています。さらに、寒さが厳しく乾燥した地域では干し柿や葛、温暖な地域では柑橘類といったように、独特のねつ環境から地域の特産品が生まれました。暑い夏には庭に水を打ち冷たいそうめんを食べ、寒い冬にはこたつで鍋を囲みます。そもそも日本には四季があり、さらに、多様なねつ環境を有する細長い国土は、多様な郷土の文化を育きました。クーラーや暖房器具の発達が著しい現代、まちのねつ環境を感覚環境のモノサシを使って再認識し、四季折々の衣・食・住の文化を、改めて見直してみることも、これからのまちづくりに必要です。

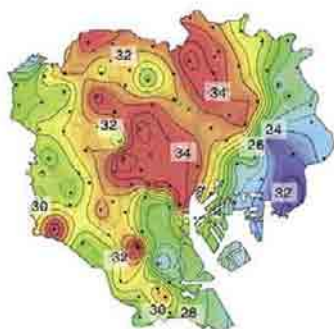


ねつ



日最高気温平均値（℃）

集計期間：2002年7月20日～9月30日



30℃以上の時間割合（％）

集計期間：2002年7月20日～9月30日

図2：ヒートアイランドを見る

都市のヒートアイランド現象について考える場合、「日最高気温の平均値」よりも、過酷な熱環境にどれだけさらされたかを示す「30度を超えた時間の割合」といった情報の方が、人間の感覚環境のモノサシにより近い評価をすることができます。

出典：東京都環境科学研究所年報 2003



## ●いろいろな場所のねつをくらべよう！

使い方

- 1) 調査対象となる範囲を決めます。(例：公園、駅周辺、通り、私の通学路 など)
- 2) 場所をいくつか設定し、ねつの様子を観察します。(例：道路・芝生・木陰・建物の隙間 など)
- 3) 働きかけによる変化を観察したら、場所毎の違いを比較します。(例：少し歩く、傘を差す、水をまく など)

私

氏名 \_\_\_\_\_ 性別 男・女 年齢 ~ 10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代~

調査の条件

日時 \_\_\_\_\_ 年 月 日( ) : ~ : \_\_\_\_\_ 季節 \_\_\_\_\_

天気 快晴・晴れ・くもり・小雨・その他( ) \_\_\_\_\_

寒暑 暑い・ちょうどよい・涼しい・寒い 風 風がある・風がない

調査対象となる範囲 \_\_\_\_\_

調査の記録

場所	マップ番号	例	1	2
	場所の説明	河川敷のアスファルトのサイクリングコース		
体感	どう感じる？	暑い   やや暑い   ちょうどよい   やや寒い   寒い 暑い   やや暑い   ちょうどよい   やや寒い   寒い	暑い   やや暑い   ちょうどよい   やや寒い   寒い 暑い   やや暑い   ちょうどよい   やや寒い   寒い	暑い   やや暑い   ちょうどよい   やや寒い   寒い 暑い   やや暑い   ちょうどよい   やや寒い   寒い
	どうして？	雲一つ無い良い天気 日陰がどこにもない アスファルトが熱い		
気温	地上 1.5 m	3 2. 1		
	地上 2 cm	3 6. 2		
風	風の強さ	強い   やや強い   弱い   しく弱い   無風 強い   やや強い   弱い   しく弱い   無風	強い   やや強い   弱い   しく弱い   無風 強い   やや強い   弱い   しく弱い   無風	強い   やや強い   弱い   しく弱い   無風 強い   やや強い   弱い   しく弱い   無風
	どこから？ 方角・風上の様子	川から少し涼しい風が 吹いてくる		
放射	日射し	日向・半日陰・日陰	日向・半日陰・日陰	日向・半日陰・日陰
	地面や周りの ものの温度は？ 触れて確かめよう	アスファルトが触って いられないほど熱い		
変化	働きかけ の内容	アスファルトでなく、 横の草地を歩いてみた		
	感じた変化	地面からくる暑さが無 くなり涼しく感じた		

ねつ

## 「感覚の複合化」とは

滝の眺めには、その水の流れ落ちる音・ほとばしる水しぶき・その場全体に満ちる湿り気を感じます。小川のせせらぎには、水のささやき・木漏れ日で光る川面があり、浜辺や海岸に打ち寄せる波の光景には、潮騒や潮風がつきものです。公園の木陰には、木々の形姿や色・枝や葉の奏でる音・適度にもたらされる風があります。商店街は、食べ物などのにおいやさまざまな音なしでは楽しくありません。このような感覚の複合“ワザ”から、心地よさが生まれます。

また、夏に公園で噴水を見れば、たとえそこからはなれていても、涼しそうだという印象をもつことがあります。つまり、ある感覚（噴水を見る）をきっかけに他の感覚（涼しさ）をイメージしているのです。（写真1）風鈴の音が涼しく聞こえたり、公園の木々の揺らめきに風の涼しさを感じるのも同じことです。また、遠くに鐘の音を聞けば、境内の風情やお香のにおいを思い浮かべるかも知れません。

さらにおもしろいことに、例えば、光のデザインの世界では、つくりたい光の様子を「パツパツ」とか「ポワン」といった音で表現しますし、かおりの世界では「甘い」とか「やわらかい」というような他の感覚と共有することを使って表現したりします。このようなことから、さまざまな感覚が相互に関わりを持っていることがわかります。

また、楽しいとき落ち込んでいるときなど、自分の気分がちがうと、同じ場所でも“いい感じ”に思えたりそうでなかったりします。

このようなことがあいまって、その場の「居ごち」を生むのです。（図1）



写真1：イメージされる感覚  
たとえ噴水からはなれていても、涼しそうだという印象をもちます。

1：知味  
人それぞれの知識や経験に依存する意味作用とそれによる環境体験の味わいのこと。



図1：感覚の複合化の例（「名水体験」食文化の風景学 / 小林 享 / 技報堂出版より作成）

# 複合化

## ● 「感覚の複合化」をまちづくりにいかす

ここまで、音・かおり・光・ねつについて、ひとつひとつその特徴やまちづくりにいかす方法についてみてきました。しかし、実際のまちでは、それらは関連し合って存在しています。ですから、複合的にとらえ、その良さに気づくセンスを磨かなくてはなりません。

まず、川や池などの身近な親水空間、涼を求め日だまりを楽しむ人々の集う緑地、四季折々の花の名所、日の出や夕暮れを愛でる場所、雨や雪や風や霧が映える場所など“いい感じ”と思う場所をみつけましょう。“いい感じ”と思った場所は、感覚の複合化が成功している場所ですから、まずそれをじっくり味わうことです。さらに、“いい感じ”を構成しているものは何か、また音・かおり・光・ねつがどのように関連し合っているのか、いろいろな角度から探っていくとよいでしょう。

### ● 情景として切り取る

雪の夜 雪明かりに浮かぶ  
まちは、しんと静まり返りかえっています。冷たい空気を胸に吸い込むと、独特の雪のかおりがします。いつもと違った特別な情景に、はっと、させられます。

あるいは、夕暮れ時 茜色

の空と長く伸びる影、家々から湯気とともに立ち上る料理やシャボンの香り、包丁のリズミカルな音、豆腐売りのラッパ、子どもたちのさよならの声、平和であたたかな、日常に深く安堵します。

また、松尾芭蕉は「閑さや岩にしみ入蝉の声」「梅が香にのつと日の出る山路哉」と詠い、複合的な感覚を「俳句」で情景として切り取りました。



### ● 時間の変化を与える

神社の境内 うっそうとした  
た社は、ひんやりとした木々のかおりに満たされ、砂利を踏みしめる音が響き、足の裏からその感触が伝わります。しかしその空間は、祭りともなると一転、たいまつ  
の炎が夜空を照らし、歓声と熱気に



包まれます。

あるいは、満開の桜 朝、澄んだ空気に、かすかな桜のかおりと小鳥の声、昼は賑やかな子どもたちの声と、暖かな風が運ぶ草花のかおり、夜は提灯に照らされた花々の下、人々の笑い声とごちそうのかおり、同じ場所でも、時間の変化で感覚環境は移ろいます。

#### ●相乗効果をとらえる

山の朝 すがすがしい空気と、森のざわめきに緑のかおり、小鳥たちの声。山の朝は心がぴりりと引き締まります。

あるいは、焼き芋屋さんからだようかおり。夏よりも寒い秋冬の方がおいしそうに感じます。また、昼間よりも夕暮れの方がそれらしく、さらに、哀愁漂う「やきいも～」の声があれば、いっそう魅力的に感じられます。



#### ●組み合わせをしつらえる

木陰や水際が結びつくと、体感温度や湿り気や樹木のかおりなどが合わさり、厚みある心地よさを生みます。

あるいは、こみ入った都市の一角を囲い、暖かさを取り込むアトリウムやサンルームの日だまりは、野原の日なたぼっこと同じくらい気持ちのよいものです。



このような形で“いい感じ”と思う場所をみつけたり、作りだしていくことは、自分の住むまちに、朝昼夕夜、春夏秋冬、種々の天候を問わず、感覚で味わい楽しむことができる“いい感じ”の拠点がもたらされるということを意味します。そして、これらがまち全体とどう関わっているのか、時間の経過にともなってどう変化するかを見ておくことは、まちづくりの方向性や目標の設定にもつながります。



## “ いい感じ ” を調べよう！ 記録しよう！

使い方

- 1) “ いい感じ ” の場面（場所・時間）に出会ったら作業開始です。
- 2) “ いい感じ ” を構成している要素を、いろいろな感覚からを見つけ、シートに記録します。
- 3) 感覚どうしの組み合わせの良さや雰囲気なども書き込み、写真やスケッチを添えます。

私

氏名 \_\_\_\_\_ 性別 男・女 年齢 ~ 10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代~

調査の条件

日時 \_\_\_\_\_ 年 月 日 ( ) : ~ : \_\_\_\_\_ 季節 \_\_\_\_\_

天気 快晴 ・ 晴れ ・ くもり ・ 小雨 ・ その他 ( \_\_\_\_\_ )

寒暑 暑い ・ ちょうどよい ・ 涼しい ・ 寒い 風 風がある ・ 風がない

調査対象となる範囲

調査の記録

“ いい感じ ” の場面（場所・時間）

“ いい感じ ” を構成している感覚

音 ( 耳 )	<input type="checkbox"/> チェック	
かおり ( 鼻 )	<input type="checkbox"/> チェック	
光 ( 目 )	<input type="checkbox"/> チェック	
なつ ( 肌 )	<input type="checkbox"/> チェック	
その他	<input type="checkbox"/> チェック	
複合化	<input type="checkbox"/> チェック	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>組み合わせ・雰囲気、時間による変化など</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">写真・スケッチ</p> </div> </div>

複合化

# 五感の雨遊うゆう

小林 享



雨のもたらす「味わい」を読み解くのはなかなか難しいが、無理を承知で試してみよう。身のまわりから五感への刺激で得られる印象を、私は「五官味（視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚で味わうこと）」と呼んでいる。雨の場合、感官への刺激とは、すなわち 眼で味わう 眺めの雨、耳で味わう 雨の音、肌で味わう 大気の湿感や濡れ、鼻で味わう 大気のおいやものの香り、舌（口）で味わう 雨を眺めながらの飲食などを指すが、これだけで味わいが成立するとは考えない。そこには知的反応が必要である。このように言うど難しく聞こえるが、要は雨と言う事象の有する種々の言語情報などが奏でる意味作用を言う。各人の知識や教養に依存するこちらの方は「知味」と呼んでいる。つまり雨の味わいは「五官味と知味の融合」であると考えたいのである。

ところで、分かりやすい五官味に比べて、雨の知味とはいったい何だろう。それは、雨にまつわる地名、神話、詩歌、文章による描写、絵画、映画などの知的資源である。まさに融合とは、雨の体験場面で五官味に知味を重ねることをいう。そうすれ

ば、その場の心地よさはいやが上にも高まろう。

とは言えこの実践となると、忙しい日常に追われる人には甚だ厳しい。そこで、見慣れた日常景の中に雨の似合う場所の目ぼしをつけておくことをお勧めする。通勤通学や買い物の途中で、雨に似合う花々の美しい競演を見つけるのもよし、また、休日ならば、お気に入りの公園や緑道を、水際で綾なす雨の水輪を楽しみつつそぞろ歩きするのもいい。ひと息つく余裕があるなら、雨宿りをかねてティーショップに立ち寄り、往き来する人々の色とりどりの傘の華を楽しもう。余計なことだが、二階ぐらいのところからやや俯瞰的に眺めた方が美しい。あるいは、雨模様を見計らって高層ビルに出かけるのもお勧めする。雨に煙った上層階に登り浮遊感を楽しむ。しばしの間スカイレストランで雲上人の気分を味わおう。もちろん、雨の総仕上げとして雨上がりの楽しみも見逃せない。香気漲り立ちのぼる大気のおいを味わいしめくくる。

その気になって探せば、さりげない日常にも美しい雨がある。雨が降るだけでは美は生まれぬ。美しいと感じる心、味わうゆとりが必要である。



## 2 つなげる

今聞こえた小学校のチャイムの音に、あなたは何を感じましたか。今年1年生になったあの子には、どんな風に聞こえたのでしょうか。個人の感覚体験を別の誰かとつなげてみると、ありふれた感覚の中に新しい発見が生まれます。

### ● つなげてみよう

「つなげる」は、みつけてきた感覚環境をわかちあう段階です。「みつける」で集めた情報を、別の誰かとわかちあい“感覚環境のモノサシ”を共有することです。とはいえ、感覚は本来主観的なものなので、共有のためにはそれなりの方法が必要です。「みつける」で紹介した「発見のためのワークシート」のように、絵やことばなどで情報を整理しておき、人に伝えやすくしておくことも一つの方法です。また、その情報をわかちあうときにも工夫が必要です。

#### 1: ワークショップ

ワークショップとは「グループによる参加体験型の学びや創造の場」のことで、1つのテーマに対して同じ体験を通じて楽しみながら、グループの相互作用の中で相互理解や合意形成を見出していく、双方向的な学びと創造の手法です。

例えば、ワークショップ<sup>1</sup>というやり方では、みんなで一緒にまちを歩き、みつけた感覚をシートに記録して持ち帰り、グループで話し合いながら、過去・現在・未来の“いい感じ”のまちについてまとめていきます。

また、ブログやホームページを使って、ひとりひとりがみつけた“いい感じ”を紹介したり、WEB上のマップにみんなで情報を書き込んだり... より多くの人から情報を集め、まとめていくという方法もあります。感覚をテーマにした、景を募集したり、写真や俳句などのコンテストを開くのも面白いですね。いずれにしても、“感覚環境のモノサシ”を共有していくプロセスそのものが、まちに暮らす人々が互いに理解を深め合ったり、埋もれていた地域の魅力を再発見したり、まちの将来目標を描いたりといったことにつながり、ひいてはまちへの愛着を深める機会にもなるでしょう。

### ● “いい感じ”のまちづくりワークショップ

ここでは、あるまちでのワークショップのプロセスを辿りながら、「つなげる」の具体的な方法を紹介していくことにしましょう。

今回は、次項のような発見のためのワークシートを準備しました。まちの中にいくつかのチェックポイントと、それらを巡るまち歩きのコースを設定します。その際、感覚を研ぎ澄ますためには「静かな場所 賑やかな場所」という順番が望ましいです。

それでは、できるだけ多くの仲間を集めて、ワークシートを片手にまち歩きに出発することにしましょう。

# 発見のためのワークシート（ワークショップ用）

## 【使い方】

- ・下のシート180%に拡大し、A4サイズのシートにします。
- ・75mm x 75mm程度の5色の付箋を各数枚ずつ貼り付けます。

# 感覚環境 発見シート

所屬

お名前

## 作業の手順

- ①チェックポイントに集合
- ②1分間目を閉じ「音・かおり・ねっ」探し
- ③目を明けた瞬間に「光」探し
- ④みつけた感覚環境をカードに記入
- ⑤チェックポイント毎にカードを集め保存

1 ←チェックポイントの番号

←みつけた感覚要素は、絵や記号、言葉（文章・擬音語・擬態語）などで自由に記録します。

○○○ ←記録者名

耳でみつける！

音

鼻でみつける！

かおり

肌でみつける！

ねっ

目でみつける！

光

心でみつける！（雰囲気・複合的感覚）

総合

# “いい感じ”のまちづくりワークショップ

協力：見沼田んぼの「環境資産」を保全・活用・創造する会  
前橋工科大学の学生さん

## まち歩きマップ

まちの中に、いくつかの特徴的なチェックポイントとそれらを巡るコースを設定し、それらを書き入れた「まち歩きマップ」をつくります。



## 1 1分間目をとじる

チェックポイントに到着したら、タイムキーパーの合図で1分間のブラインドタイム。目を閉じて耳・鼻・肌に意識を集中させ、音・かおり・ねつなどの感覚環境を丁寧にみつめていきます。1分後の合図で目を開き、その瞬間目に飛び込んできた光も感じましょう。



## 2 感覚環境をつかまえる

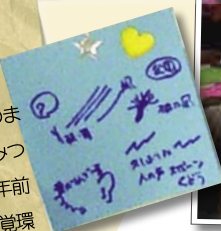
みつけた感覚環境を、ワークシート(前頁)につかまえます。音・かおり・光・ねつの印象を、それぞれの色の付箋に絵やことばで記録します。分類が難しい雰囲気などは総合の付箋に記入しましょう。また、それぞれの付箋には、チェックポイント番号と記録者の名前も忘れずに。

## 3 グループでわかちあう

各自でつかまえた感覚環境を、グループで発表しながら、チェックポイント毎のまとめシートに整理していきます。全員が気がついた大きな音もあれば、私だけが気づいた微かなかおりもあるでしょう。感覚環境を題材に、私たちのまちについてたくさん話してみましょう。

## 4 移ろいを加える

移ろいとは時間の変化のこと。今日のまち歩きやブラインドタイムの瞬間にはみづからなかった、1日前、1年前、数十年前の記憶や伝承、未来への希望の中の感覚環境も書き出します。過去や未来の感覚環境だとわかるように、付箋にシールやマークをつけておきましょう。



## まとめのシート ＜チェックポイント用＞

チェックポイント毎に、1枚ずつ用意します。どこで、どんな感覚がみつかったか、「場所」による整理を行うためのシートです。その場所の概要や写真なども添えたら、この段階で写真やコピーで記録を残しておきます。